

7-12

生活改善・その人らしい一日を目指して

自立支援の取り組みから得られる可能性

特養ユニット

自立支援

社会福祉法人 聖風会 特別養護老人ホーム「足立新生苑」

ユニットリーダー： 鎌田憲太郎

共同研究者： ユニットメンバー他4名

東京都足立区花畑4-39-10

TEL： 03（3883）7946

E-mail： sinseien@seifuukai.or.jp

FAX： 03（3880）0950

URL： <http://www.seifuukai.or.jp>

【施設・事業所の概要】

併設：在宅サービスセンター・地域包括サービスセンター・ケアマネージメントセンター

入所定員：220名 ショートステイ：16名

＜取り組んだ課題＞

- ・施設生活の中で、利用者の残存機能を活用した自立支援を行えるように促した。
- ・生活の中で静（お茶などを飲んでゆっくりと過ごしている時間）と動（洗濯物干し・食器拭き等の生活の中で必要な作業（家事）を行う時間を作ることで、生活にメリハリが生まれ、そこから自然と各利用者一日の時間の過ごし方を作れるように取り組んだ。

＜具体的な取り組み＞

- ・具体的にケアプランへ自立支援に関するサービス内容を挙げてそれを生活の中で実施しその時の様子を観察・記録に残す事でユニット職員が把握し、自立支援に関して統一したケアが行えるように取り組んだ。
- ・洗濯物干しを今までは職員が行っていたが、ハンガーに紐をつけて利用者の手で洗濯バサミを挟めるように（車椅子に座った状態でも行えるように配慮している）する。そして利用者に声掛けして職員と一緒に言い、生活の中で洗濯物を干す作業があることを利用者に認識して頂けるようにした。
- ・食事時の際に使用するおしぼり・洗顔用タオル・清拭タオル等を畳む・丸める等の作業を利用者にお願いした。数が多くなるので何人かの利用者で囲み、協同行えるように取り組んだ。
- ・食事時に味噌汁や麺類の際は、利用者に味噌汁をよそ、麺きりをして頂く。出来るだけ以前、食に関する仕事をしていた方に行って頂けるように配慮した（その人らしさを大切にしていこう）。

- ・食事のお茶入れ・ランチョンマットを敷く・箸やスプーンの用意は、声掛けをして促していくことで自然と利用者自身で行う事が出来るように取り組んだ。

- ・おやつの中では、今までは職員が準備・提供をしていたが、おやつを開ける作業から利用者に行ってもらい、その中で関わりを進めていく内におやつを入れる器選びから飲み物の砂糖を入れる等の広がりをもてるように取り組んだ。

＜活動の成果と評価＞

- ・様々な作業(家事)を行っていく中で、利用者同士で声を掛け合う姿が見られるようになった。利用者間のコミュニケーションが円滑になり、そこから社会性の向上や自尊心の芽生えも見られるようになった。
- ・利用者個々の表情が以前に比べると明るくなり、自分でも何かの役に立てるといった喜び・自信・自覚を持てるようになった。それにより、～をやろうか？といった自発的な声が多く出るようになった。
- ・利用者をお願いする事でその方の生活がより活動的になり、行事・クラブ等様々な活動への参加意欲も高まってきている。
- ・手先・身体を動かす事により自然と良い生活リハビリになっている。
- ・利用者だけでなく、職員も相手（利用者）のことを考えて手伝い過ぎない適度なケア（利用者を待つ事ができるようになった。）また、様々な事をお願いしていく中で各利用者のできること・できないことが把握できるようになった。（ここまではできるがここからはサポートが必要である等）残存機能を意識して活用できた事で色々な可能性が生まれ、職員も「これは利用者にもできるのでは？」と柔軟な発想が持てるようになった。